

注、雑誌『桜』に連載した三好學「桜に関する図書解題略」

書は高德の櫻に關せる故事に因める詩歌を集めたるものにして、卷末に文章二編あり。

三八八 大櫻集

塚原幾秋
明治十五年

一冊

甲州山高寶相寺の神代櫻を顯揚せんが爲めに集めたる俳句集にして、俳諧の連歌を載せ、次に俳句、終りに詩及び和歌を收めたり。諸家の序跋、題字、口繪等あり。

三八九 芭蕉翁奈良七重の句碑石櫛

一幅

碑は奈良嫩草山の麓に立ち、芭蕉の「奈良七重七堂伽藍八重櫻」の句を刻す。「應需抱一書」とあり、岡本勇治氏の寄贈にかゝる。

三九〇 揖斐の二度櫻俳句集

一枚

美濃揖斐南方の二度櫻を詠める俳句集にして、首に二度櫻の着色圖あり。名和靖氏の寄贈にかゝる。

三九一 二度櫻の俳句

松島十湖筆

一幅

「兎も角も一度は見たし二度櫻」とあり。名和靖氏の寄贈にかゝる。

三九二 大和の名櫻

奈良縣主催櫻花講演會並櫻花展覽會記念繪端書

一組

奈良縣の櫻の名木の寫眞繪はがきなり。

三九三 汐見櫻

繪はがき

一枚

一九

三九二 櫻の会による桜花展覽會が東京以外ではじめて奈良県で開催される。そのときの繪はがき集である。